博士論文（要約）

論文題目　　室町物語研究

—絵巻・絵本への文学的アプローチ—

氏　　名　　澤井　耐三

室町物語研究——絵巻・絵本への文学的アプローチ＊目　次

はじめに　1

序章

御伽草子にみる「富」について　6

はじめに／大黒舞／福富草紙

筆結の物語／文正草子ほか／終わりに

一章

『善教房絵詞』——届かない念仏の架け橋——　29

重文の白描絵巻／貴族の家の人々

善教房の宗教的立場／絵巻制作の意図

『福富草紙』——嘲笑と諷刺——　52

保刀禰・福富／『福富長者物語』

『おようの尼』絵巻――梵字の謎――　61
はじめに／梵字の掛軸／御用の尼の造型／発心譚と笑話

二章

『毘沙門の本地』の天界遍歴譚――星の伝説と信仰――　79
宵の明星、七夕／北斗七星、明けの明星
月、太陽／地蔵菩薩／終わりに
『宝蔵絵詞』――熊野・切目王子伝承――　102
荒ぶる神、麁乱神／阿古町と稲荷神
豆の粉の化粧／足を切られた切目王子／まとめにかえて

三章

『精進魚類物語』擬人名考――笑いの合戦記――　129
鮭、はららご、氷頭　御料、納豆、鰐、鮓、鯛、
こんにゃく、豌豆、蒡、煎大豆、柚皮、糟太、梅干
『精進魚類物語』擬人名考――笑いの合戦記・追考――　143
人名の検討／地名から／食材から

『鼠の草子（鼠の権頭）』――怪婚譚と女性――　163
諸本／怪婚と姫君の逃亡
性の会話／台所風景　酒／終わりに
『鼠の草子（鼠の権頭）』――中世の嫁入り行列――　187
嫁入り行列／婚儀
近迎え、提灯／終わりに
幻の『鼠の草子』――巫女の口寄せ詞章を中心に――　205
（絵巻）の原稿から／古書店図録の絵巻から／物語の復元に向けて

四章

『磯崎』――嫉妬する女の悲劇――　230
狂歌／説話、血盆経／成立
［参考資料］『血盆経』版本／『血盆経』刷り物／『血盆経縁起』
『常盤の姥』――滑稽な不孝話――　251
虚妄の念仏／「孝」への反論／美化された過去／終わりに
『ささやき竹』――物語化の方法――　274
説話と略本系『ささやき竹』／広本系『ささやき竹』と『鳴門中将物語』
説話から物語へ／悪霊となった西光坊

『しぐれ』――時雨の出会いと呪詛――　295
『木幡の時雨』と『しぐれ』／危機の中の巡りあい
男を独占する呪い

付編

謡曲『樒天狗』――もう一人の六条御息所――　316
魔界の美女／郁芳門院と鳶／終わりに
狂言『富士松』考　329
富士松／俳諧

翻刻

桜井健太郎氏蔵『鼠の草子』　337
ベルリン国立図書館蔵『月王・乙姫物語』　347

初出一覧　369
あとがき　372
主要語彙索引　i

（３）本文

博士論文の全部がすでに図書として出版されており、契約内容により、インターネット公表に対する許諾が得られていません。

　版権が出版社にあるために電子公開の許諾がとれませんでした。

出版契約書の写しを添付いたします。

　出版された論文の書誌事項

書名：『室町物語研究　――絵巻・絵本への文学的アプローチ――』

著者：沢井耐三

出版社：三弥井書店

出版年：２０１２年１１月

ＩＳＢＮ９７８－４－８３８２－３２３９－０

定価：８４００円＋税

（４）参考文献一覧

序章

御伽草子にみる「富」について

『大黒舞』

『文正草子』

『酒の泉』

『福富草紙』

『福富長者物語』

『筆結の物語』

『史記桃源抄』

『長者経』

『法妙童子』

『看聞御記』

『鴉鷺合戦物語』

『毘沙門天王功徳経』

『覚禅抄』

『田植草紙』

『玉塵抄』

『狂雲集』

『乳母の草紙』

『世鏡抄』

永原慶二『日本の歴史』１０（中央公論社、１９６５）

小松和彦『福の神と貧乏神』（筑摩書房、１９９８）

桜井好朗『中世日本人の思惟と表現』（未来社、１９７０）

鳥居明雄「祝言の視界」（『御伽草子：物語・思想・絵画』ぺりかん社、１９９０）

市古貞次『未刊中世小説解題』（楽浪書院、１９４２）

家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店、１９５４）

渡辺昭五『芸能文化史辞典（中世編）』（名著出版、１９９１）

福田晃「唱導文学と御伽草子」(「国文学解釈と鑑賞」１９８５・１１)
豊田武『中世の商人と交通』(吉川弘文館、１９８５)

一章

『善教房絵詞』――届かない念仏の架け橋――

サントリー美術館本『善教房絵詞』
大和文華館本『善教房絵詞』
『国文東方仏教叢書』文芸
『雑談集』
『徒然草』
『今昔物語集』
『沙石集』
『法華経』
『往生要集』
藤懸静也「善教房物語画巻に就て」(「国華」４０９、１９２４)
三上満「善教房絵詞」(『体系物語文学史』４、有精堂出版、１９８９)
徳田和夫『御伽草子研究』(三弥井書店、１９８８)

『福富草紙』――嘲笑と諷刺――

『福富草紙』
『福富長者物語』
『新猿楽記』
『宇治拾遺物語』
市古貞次『中世小説の研究』(東京大学出版会、１９５５)
岡見正雄『新修日本絵巻物全集』１８
小松茂美『続日本の絵巻』２７
佐竹昭広『民話の思想』(平凡社、１９７３)
黒田紘一郎「中世京都の警察制度」(『京都社会史研究』法律文化社、１９７１)

『おようの尼』絵巻――梵字の謎――

サントリー美術館蔵、絵巻『おようの尼』

奥平英雄『御伽草子絵巻』（角川書店、１９８２）

東京大学図書館蔵、奈良絵本『おようの尼』

『悉曇要訣』

『七十一番職人歌合』

『邦訳日葡辞書』

『嬉遊笑覧』

『今昔物語集』

『古本説話集』

市古貞次、野間光辰『鑑賞日本古典文学　御伽草子・仮名草子』（角川書店、１９６３）

西沢正二「中世小説考４<おようの尼>」（「文経論叢」１９７７・３）

秋谷治「『おようの尼』考」（「国語と国文学」１９８０・５）

二章

『毘沙門の本地』の天界遍歴譚――星の伝説と信仰――

慶応義塾大学蔵『毘沙門の本地』

『室町物語集』

ケルン東洋美術館蔵『毘沙門の本地』

『秘蔵日本美術大観』８

『近江国風土記』逸文

『法華経文句』

『法華経直談抄』

『暮露暮露の草子』

『霊異相承恵印儀軌』

『無名草子』

謡曲『姨捨』『羽衣』

『修験常用秘法集』

『百座法談聞書抄』

『日本記一流之大事』
『兵法秘術一巻書』
『桂川地蔵記』
島津久基『お伽草子』（岩波文庫）
松本隆信『中世における本地物の研究』（汲古書院、１９９６）
萩野由之『新編御伽草子』（誠之堂書店、１９０１）
内海弘蔵『御伽草子集』（内外書籍、１９３０）
野村八良『室町時代小説論』（巌松堂書店、１９３８）
津田左右吉『文学に現はれたる我が国民思想の研究』(岩波書店、１９６６）
徳田和夫「『毘沙門の本地』の源流」(「国語国文論集」１８、１９８９・３）
野尻抱影『星の民俗学』（講談社学術文庫、１９７８）
『定本柳田国男集』１３
内田武志『星の方言と民俗』（岩崎美術社、１９７３）
佐野賢治『虚空蔵菩薩信仰の研究』（吉川弘文館、１９９６）
埼玉県立歴史資料館『板碑　埼玉県板石塔婆調査報告書』（名著出版、１９８１）
速水侑『地蔵菩薩』（塙書房、１９７５）

『宝蔵絵詞』――熊野・切目王子伝承――
『長寛勘文』
『神道集』
『修験指南抄』
『諸山縁起』
『両峯問答秘鈔』
『保敬随筆』
『元亨釈書』
『寂照堂谷響集』
『新猿楽記』
『稲荷記』
『高山寺古典籍纂集』

『しぐれ』
『筆結の物語』
『渓嵐拾葉集』
『熊野詣日記』
『修明門院熊野御幸記』
『中右記』
石塚一雄「後崇光院宸筆宝蔵絵詞」(「書陵部紀要」２１、１９７０・３)
鈴木宗朔「熊野参詣儀礼の記録と説話」(『古文学の流域』新典社、１９９６)
山本ひろ子『大荒神頌』(岩波書店、１９９３)
恋田知子「女性の巡礼と縁起・霊験説話」(「巡礼記研究」１、２００４・１２)
田中貴子『愛と外法の中世』(砂子屋書房、１９９３)
大和岩雄「阿小町・小野小町とダキニ」(「朱」３６、１９９３・２)
近藤喜博『古代信仰研究』(角川書店、１９６３)
田中貴子『性愛の日本中世』(洋泉社、１９９７)
『定本柳田国男集』５
大島建彦「片足神の伝承」(『岡山県の正月行事』、１９６７)

三章

『精進魚類物語』擬人名考――笑いの合戦記――

『群書類従』雑部
『再昌草』
『延喜式』
『源平盛衰記』
『教言卿記』
『お湯殿上日記』
『太平記』
『本朝食鑑』
『月林草』

『竹馬狂吟集』
『法然上人絵伝』
『為盛発心因縁集』
『犬筑波集』
『言継卿記』
『宇治拾遺物語』
『若州湯川彦右衛門覚書』
『策彦和尚初渡集』
秋谷治「『精進魚類物語』の古版本」(「伝承文学研究」２１、１９７６・３)
小島瓔礼「精進魚類物語と口承文芸」(「日本民俗学会報」３６、１９６４・１１)
野村純一『昔話伝承の研究』(同朋社出版、１９８４)
豊田武『中世日本の商業』(吉川弘文館、１９８２)

『精進魚類物語』擬人名考――笑いの合戦記・追考――

『室町時代物語大成』１２
『龍門文庫善本叢刊』１１
『島原松平文庫善本叢刊』
『東勝寺鼠物語』
『近江愛智郡誌』
『新撰菟玖波集』
『法然上人絵伝』
『松虫鈴虫讃嘆文』
『玉海集』
『言継卿記』
『本朝食鑑』
『再昌草』
『承久記』
『吾妻鏡』
『多聞院日記』

『醒睡笑』
『紅梅千句』
『近江国輿地志略』
『古今夷曲集』
『碧山日録』
『鹿苑日録』
『料理物語』
『遠碧軒記』
『桂川地蔵記』
高橋忠彦ほか『御伽草子　精進魚類物語』（汲古書院、２００４）
市古貞次『中世文学年表』（東京大学出版会、１９９８）
梅野莉恵「中世小説『精進魚類物語』の研究」（「古典文学研究」２、１９９３・７）
岩井宏美「海の幸と神饌」（朝日百科「日本の歴史」中世１－６、１９８５・５）
鳥居本幸代『精進料理と日本人』（春秋社、２００６）

『鼠の草子（鼠の権頭）』――怪婚譚と女性――

天理図書館蔵『鼠の草子』
桜井健太郎氏蔵『鼠の草子』
サントリー美術館蔵『鼠の草子』（三類本）
日本古典文学全集『御伽草子集』
松本隆信「増補現存室町時代物語類簡明目録」（『御伽草子の世界』、１９８２）
『東勝寺鼠物語』
『隠れ里』（恵比須大黒合戦）
ルイス／フロイス、岡田章雄訳『ヨーロッパ文化と日本文化』
『慕帰絵詞』
『春日権現験記絵』
『善教房絵詞』

『酒飯論絵詞』（三論絵詞）
『猿の草子』
『弥兵衛鼠』
岡見正雄「「鼠草子」解説」（「女子大国文」５、１９５７・３）
下房俊一「口語資料としての画中詞」（「島大国文」２３、１９９５・２）
小野晃嗣『日本産業発達史の研究』（至文堂、１９４１）
出雲朝子「中世末期における東国方言の位相」（「国語と国文学」７２－１１、１９９５・１１）
渡辺匡一「鼠の草子」（「国文学解釈と鑑賞」１９９６・５）

『鼠の草子（鼠の権頭）』――中世の嫁入り行列――
天理図書館蔵『鼠の草子』
甲子園学院蔵『鼠草子絵巻』
『言継卿記』
『貞丈雑記』
『今川大双紙』
『娵入記』
後藤みち子『中世公家の家と女性』（吉川弘文館、２００２）

幻の『鼠の草子』――巫女の口寄せ詞章を中心に――
某氏蔵『鼠の草子』
『文学堂古書目録』（２００３・初冬号）
徳田和夫「ハーバード大学付属美術館蔵、白描『鼠の草子絵巻』について―付・翻刻―」（「学習院女子大学紀要」１１、２００９・３）
中山太郎『日本巫女史』（大岡山書店、１９３０）
『定本柳田国男集』９
『巫女の世界』（三一書房、１９８９）
『巫女の習俗　秋田県』（文化庁文化財保護部、１９９３）
酒向伸行「口寄せ巫女の詞章」（『民俗の歴史的世界』岩田書院、１９９４）

四章

『磯崎』――嫉妬する女の悲劇――

『室町時代物語大成』２

『玉だすき』

『遠近草』

『三国伝記』

『伊吹山酒典童子』

『法華経鷲林拾葉鈔』

『遊楽習道風見』

『幻中草打画』

『七人比丘尼』

『仏説大蔵正教血盆経』

『仏説大戒正血盆経』

『血盆経縁起』

『長弁私案抄』

『翰林胡蘆集』

『補庵京華続集』

『実隆公記』

『骨董集』

『艶道通鑑』

『天狗の内裏』

『俳諧之註』

高野辰之「磯崎解題」(「国文学踏査」２、１９３３・６)

岸得蔵『仮名草子と西鶴』(成文堂、１９７４)

福田秀一『中世和歌史の研究』(角川書店、１９７２)

恋田知子『仏と女の室町』(笠間書院、２００８)

『常盤の姥』――滑稽な不孝話――

『常盤の姥』(『群書類従』雑部、『室町時代物語大成』１０)

『保元物語』

『父母恩重経』
『月庵酔醒記』
幸若『和田酒盛』
『曽我物語』
『きのふはけふの物語』
『源氏物語』
『伊勢物語』
『宴曲集』
『幻中草打画』
『二人比丘尼』
市古貞次『中世小説の研究』（東京大学出版会、１９５５）
秋谷治「『常盤の姥』考」（「国語と国文学」）５６－１２、１９７９・１２）
坂巻理恵子「中世小説『常盤嫗物語』の成立に就いて」（お茶の水女子大・人間文化研究年報）１５、１９９３・３）
中塩清臣「「常盤嫗物語」の発生基層」（「北海道学芸大学紀要」１６－１、１９６５・８）
徳田進『孝子説話集の研究』（井上書房、１９６３）

『ささやき竹』――物語化の方法――

岩瀬文庫蔵『ささやき竹』
国文学研究資料館蔵『ささやき竹』
『沙石集』
『雑談集』
『法華経鷲林拾葉鈔』
『地蔵菩薩霊験記』
『一乗拾玉抄』
『鳴門中将物語』（なよ竹物語絵巻）
『大和物語』
『めのとのさうし』
『増補大和詞』

『きのふはけふの物語』
『宇野主水日記』
『後法興院記』
『看聞御記』
『言継卿記』
野村八良『室町時代小説論』（巌松堂書店、１９３９）
市古貞次『未刊中世小説解題』（楽浪書院、１９４２）
永井義憲「講経談義と説話」（「大妻国文」４、１９７３・３）
中野真麻理「鞍馬の黒牛」（『説話論集』５、清文堂、１９９６）
大森郁之助「「ささやき竹」私注」（「日本文学論究」２１、１９６２・６）
松原秀一『中世の説話　東と西の出会い』（東京書籍、１９７９）
杉浦民平『戦国乱世の文学』（岩波新書、１９６５）
岡見正雄「白河印地と兵法」（『室町文学の世界』岩波書店、１９９６）
網野善彦、横井清『都市と職能民の活動』（中央公論新社、２００３）

『しぐれ』――時雨の出会いと呪詛――

大東急記念文庫蔵『しぐれ』
『しのびね物語』
『木幡の時雨』
『野坂本物語』（あきぎり）
『新猿楽記』
『沙石集』
『高山寺古典籍纂集』
『元興寺編年史料』
『修験深秘行法符咒集』
市古貞次『中世小説の研究』（東京大学出版会、１９５５）
松本隆信「擬古物語系統の室町時代物語―「しぐれ」「若草」「桜の中将」「志賀物語」外―」（「斯道文庫論集」４、１９６５・３）
中野荘次「風葉和歌集考（下）」（「国語国文」１９３３・３）
小木喬『鎌倉時代物語の研究』（有精堂出版、１９６１）

佐々木八郎『中世文学の構想』（明治書院、１９８１）
神野藤昭夫「『しのびね物語』の位相」（「国文学研究」６５、１９７８・６）
三角洋一「改作物語の和歌」（「東京大学教養学部人文科学科紀要」８１、１０８８・３）
辛島正雄「擬古物語とお伽草子の間」（「文学」１９８８．１）
玉上琢彌「こはたの時雨論攷」（「国語国文」１９３７・１０）
豊島秀範「『しぐれ』論」（「弘前学院大学・同短大紀要」２７、１９９１・３）
三角洋一『堤中納言物語』（講談社学術文庫、１９８３）

付編

謡曲『椦天狗』――もう一人の六条御息所――

国民文庫『謡曲全集』
日本名著全集『謡曲三百五十番集』
謡曲叢書
『糺河原勧進猿楽日記』
『親元日記』
『源氏物語』
『洛陽田楽記』
『京城万寿禅寺記』
『鴉鷺合戦物語』
『玉塵抄』

狂言『富士松』考

日本古典全集『狂言集』
『狂言不審紙』
『五山文学新集』
『五山文学全集』
『萱草』
大永本『誹諧連歌抄』（犬筑波集）

『新旧狂歌俳諧聞書』

幸若『夜討曽我』

『三河物語』

『月庵酔醒記』

翻刻

桜井健太郎氏蔵『鼠の草子』

出雲朝子「『鼠の草子絵巻』諸本の画中詞における人称詞と敬語」(「青山学院女子短期大学紀要」５０、１９９６・１２)

ベルリン国立図書館蔵『月王・乙姫物語』

エヴァ・クラフト、北村浩、沢井耐三『西ベルリン本お伽草子絵巻集と研究』(未刊国文資料刊行会、１９８１)

辻英子『在外日本重要絵巻集成』(笠間書院、２０１１)

問屋真一「御伽草子「月王・乙姫物語（りうくう)」」(「神戸市立博物館研究紀要」２３、２００７・３)

論文の内容の要旨

論文題目　室町物語研究
—絵巻・絵本への文学的アプローチ—

氏　名　澤井　耐三

平安時代末から江戸時代初期にかけて、数多くの絵巻物、奈良絵本（以下、絵本と略す）が作られた。このうち、室町時代以降の絵巻、絵本は「御伽草子」と称される文学作品であることが多い。本論文は、御伽草子作品のうち、主に室町時代成立ないしはその時代の傾向を色濃く残すものを取り上げ、絵をも含めた物語世界を検討し、それぞれの作品が持つ特徴や独自性、さらには、その作品の時代的な意味などについて考究した。

序論として最初に掲げた「御伽草子にみる「富」について」の論は、室町から江戸初期にいたる時代の現実を御伽草子作者がどのように捉えていたのか、「富」という視点から検証しようとしたものである。室町期には既に多様な産業が興り、『七十一番職人歌合』に描かれたように庶民の営利活動も盛んで、貨幣経済の著しい進展が見られたが、御伽草子は必ずしもその力強い現実を描き切れていない。御伽草子が描く致富の道筋を、『文正草子』や『大黒舞』などに見る神仏を背後にした呪的な感性、『福富草子』に見られる富の喪失と諷刺の精神、あるいは『筆結の物語』の商行為の教訓や『鴉鷺合戦物語』の投機的蓄財法の記述などを分析しながら、御伽草子の現実的な世界の把握の方法について概観した。

第一章では、室町初期ごろの成立とされる『善教房絵詞』（重文）ならびに『福富草紙』（重文）、『およう の尼』の三つの絵巻を取り上げた。『善教房絵詞』は善教房がさまざまな階層の人々に念仏や出離を勧めるのに対し、人々はあれこれとこれに反論する。本稿は、そこに見える天台浄土教の教説や無常観、殺生や食肉、雇い主に対する不満等、当時の宗教や生活の有り様を吟味し、宗教の性格や庶民の意識を明らかにした。浄土真宗の宣揚などではなく、説法の困難さを描いた作品であることを提示した。

『福富草紙』絵巻の論は、放屁の芸に失敗して打擲される福富の悲劇には、保刀禰として権力の側にあった福富の権威失墜を嘲笑する、庶民の下剋上の意識と鋭い諷刺が込められていることを指摘した。

『およう の尼』の論は、絵巻の最終部に書き込まれている謎めいた梵字を読み解くことによって、この物語の宗教的な本質を考察するとともに、市井の一隅に生きる庶民のひたむきな人生について考えた。従来、滑稽、諷刺の物語とされてきた霞亭文庫本との比較を通じ、宗教的な発心譚が笑話へと移行する道筋についても言及した。

第二章では、室町人の心に強く作用していた民間信仰的な仏教が、物語の中で再生されている『毘沙門の本地』と『宝蔵絵詞』を取り上げた。前者は、幽冥境を異にし、はるかな天上の梵天王宮に住む最愛の妻を訪ねて、主人公が天界を飛翔、遍歴する物語で、天空を渡るたびに出会う人々は、牽牛星、七夕、夕つづ、北斗七星、明けの明星、月、太陽などであった。旅する主人公に同情し、励ますそれらの星々には、この時代の星をめぐるさまざまな伝説や宗教的寓意が込められているが、本稿はそうした背景を実証するとともに、メルヘンハフトな物語の構造についても考察した。

後者は、熊野参詣路に祀られた切目王子をめぐる物語で、粗野な行為により熊野権現から放逐され、荒ぶる神となった王子が、稲荷社の阿古町（あこまち）という女神の願いを聞き入れ、豆の粉の化粧をした熊野参詣者の福は奪わないと約束する物語である。豆の粉化粧は実意の『熊野詣日記』記事により、実際、切目王子社で行われていた風習であったが、本稿では『諸山縁起』『両峯問答秘抄』など各種の資料から、様々な伝承を、本作がどのように物語化しているかを分析した。

第三章では、異類物の代表作である『精進魚類物語』と『鼠の草子』を検討した。前者は、ともに食品である精進物と魚類の、架空の合戦を描いた滑稽な物語であるが、野菜、果物、魚類などには様々な擬人名が付されている。本稿（二編）は、時代や故実を反映したそれらの命名法について吟味し、滑稽の内実を考証した。

後者（二編）は、絵巻物として伝わる四種類の『鼠の草子』について、嫁入り行列、台所風景、働く者たちの会話、酒の名、提灯等の記述を取り上げ、諸本間における笑いや物の名の変化をたどりつつ、それぞれの絵巻の特徴や成立の前後関係などを考察した。「幻の『鼠の草子』」の論は、手書き原稿と古書店目録の写真という間接資料によるものであるが、未紹介のテキストでもあり、特に巫女の口寄せ詞章には他に例を見ない珍しい叙述が含まれており、検討を加えた。併せて、この物語の復元を試みた。

第四章には、『磯崎』『常盤の姥』『ささやき竹』『しぐれ』の四編の論を掲げた。しいて纏まりを付ければ、女性にかかわる作品の論ということができる。妬婦の肉付き面を扱った物語『磯崎』では、女人教戒の狂歌、妬婦の説話、女人救済の「血盆経」などについて解説を施し、男の論理からする偏見の内実を考察した。血盆経に関連して、江戸期のものながら版木、刷り物、縁起の資料を掲出した。

『常盤の姥』は、連れあいを亡くし孤独を嘆く九十歳余の老女の愚痴を写した物語である。子供や孫からも冷遇される姥が、往生を願って唱える念仏の間に、食べ物の名を連呼し、子供たちの親不孝を非難し、美化した自分の昔を語るなど、子供たちに当てつけた現実が顔を出し、落語の「小言念仏」のような滑稽が描かれている。本稿は、そこに描かれた仏教や孝行の観念、古典作品の言辞等を検討し、滑稽譚、往生譚である側面とともに教訓の書でもある性格を指摘した。

『ささやき竹』については、既に無住の『雑談集』にその原話が載り、その他の説話集にも類話が見えていることは、従来指摘されてきたところである。本稿では、男女の恋愛成就の物語として増補、改変された広本系『ささやき竹』という作品について、前半部が『鳴門中将物語』の構想を剽窃していること、また後半の悪僧懲罰の描写には当代的な事柄の反映が

あることなどを指摘し、物語化の方法について考察した。

『しぐれ』という作品は、擬古物語『あきぎり』『しのびね』など、いわゆる「しのびね型」と称される作品の系列に繋がるもので、これらの物語を簡略化した御伽草子と考えられる。本稿では『しぐれ』に見える時雨の中での男女の出会い場面を、『木幡の時雨』と比較して差異の様相を考察し、また主人公が呪詛を掛けられて恋人を忘却してしまう趣向については、男祭（をまつり）という呪詛の方法が現実にあったことを例証して、物語作者の意図に迫ろうとした。

付編として、謡曲『椦天狗』、狂言『富士松』の論を掲げた。前者は、主人公が六条御息所と名乗り、従来『源氏物語』の六条御息所の堕地獄の様相を描いたものとされてきたことについて、本稿はこれを否定し、『京城万寿禅寺記』などの記事により、謡曲の六条御息所は院政期に実在した、白河上皇の娘、郁芳門院媞子（ていし）であることを証明した。歌合や田楽の愛好など、媞子をめぐる種々の伝説を検討し、清浄身の慢心から天狗道に堕ちた伝説が、『椦天狗』の本話であることを論じた。

後者は、富士山に参詣し富士松を持ち帰った太郎冠者が、その松を主人に取り上げられそうになるが、粘り強く抵抗するという狂言で、その題材となった富士松が、室町時代いかに珍重されたものか、史料を通じて検証し、また太郎冠者の逆襲の鋭さについても言及した。

最後に、他に伝本がない未翻刻の桜井健太郎氏蔵『鼠の草子』、以前に翻刻しながらも限定版であったベルリン国立図書館東アジア部蔵の『月王・乙姫物語』の、二点の絵巻の校訂本文、図版を掲出した。
巻末に「初出一覧」「主要語彙索引」を載せた。

各論をまとめた全体の論は置いていないが、物語の分析にあたり、作品ごとに語彙や表現、時代背景などを実証的に検証するように心がけた。御伽草子や、その絵巻、絵本が包含する多様で豊饒な世界が、本論文を通じてほの見えることになれば幸いである。